# Za・あぐりふぉーむ

Zennoh-akita agriculture+reform

2024.8.5
Vol.54

## 目次


**生産現場情報：** 地域農業者の声を集め、次世代農業を創造する　～農事組合法人アグリあいかわ～　Ｐ１～４

**営農支援情報：** 「野菜」夏から秋にかけての管理作業のポイント　Ｐ５

**ご　紹　介：** 兵庫県のスーパー「ｍａｎｄａｉ（万代）」で　サキホコレ試食販売を実施しました　Ｐ６

ＪＡうご産「スターチス」ほか秋田県産花きの魅力を発信　Ｐ７

「第３５回秋田県ＪＡ農業機械大展示会」を開催！　Ｐ８～９

**お　知　ら　せ：** ９１農業 ～新しい形の農業参加～【労働力支援】　P10～11

# 生産現場情報

## 地域農業者の声を集め、次世代農業を創造する
## ～農事組合法人アグリあいかわ～

**１．法人設立の背景等**

秋田市雄和相川地区は、農業従事者の高齢化や後継者不足等といった悩みがありました。それらを踏まえ、水稲や大豆の乾燥調製作業について地区全戸からアンケートを行った結果、農業全般を委託できないかという声が多くありました。地区内で委託を希望する圃場がおよそ６０ｈａほどあり、もともと兼業農家であった伊藤代表理事は秋田市役所を退職後、こうした意見をまとめ、農事組合法人アグリあいかわを設立することになりました。同地区では全体で１３０戸２００ｈａの圃場があり、その半分（およそ１０２ｈａ）をアグリあいかわが担っています。高齢化で担い手が減少する中、農地集積を進め、地域の農業を次の世代へとつなげています。

平成３０年には、平成２８年３月に秋田市と協議のうえ閉校した旧戸米川小学校の体育館を改修して再利用した「ライスセンター」が完成しました。同年４月からは県が推進している「園芸メガ団地　サテライトタイプ」としてねぎや枝豆の栽培に取り組んできました。これらの取り組みが評価され、令和３年２月には経営体部門で「秋田市農業大賞」を受賞しました。

法人名：農事組合法人　アグリあいかわ
設　立：平成２９年（２０１７年）２月
代表者：代表理事　伊藤洋文
所在地：秋田市雄和相川字銅屋３０９
構　成：３８名（職員数：常勤職員５名、
常勤嘱託職員１名、
臨時雇用人数　約２０名）

ホイールローダーと旧戸米川小学校舎

伊藤洋文代表理事

## ２． 経営の概要・特色

経営の概要（令和６年度）

■経営面積：約１０２ｈａ

・水稲：４４．８ｈａ

（品種）あきたこまち（直播栽培実施：９ｈａ）

・大豆：４５．７ｈａ

（品種）リュウホウ

・枝豆：６．４ｈａ

（品種）カネコ００４、味風香、おつな姫、初だるま、湯上り娘、夏風香、ゆかた娘、つきみ娘、雪音、神風香、あきた香り五葉、あきたほのか、あきたさやか

・ねぎ：２．２ｈａ

（品種）夏扇パワー

・牧草：１ｈａ

経営の特色

雄和相川地区は、農地の高低差や水はけの良さなど、場所ごとの適性に大きな違いが見られるため、その特徴を捉えて栽培を行っています。雑草対策のほか圃場選びが大変な作業となりますが、条件がかみ合えば安定した収量が確保されます。次のような栽培計画が毎年行われ、収量・品質の安定化に一役買っています。

■水稲直播について

水稲（あきたこまち）は一部の農地（約９ｈａ：２０％弱）で直播栽培を行っています。除草が容易・苗立ちが良い直播に適した圃場を選ぶことにより、作業の効率化を図っています。

■大豆栽培について

アグリあいかわは、水稲単作地帯であった雄和相川地区で初めて大規模な大豆の栽培を行っています。設立後、水稲とほぼ同じ作付面積となり、主力品目となっています。

■「園芸メガ団地：サテライトタイプ」について

平成３０・３１（令和元）年度には、枝豆やねぎを栽培する県の「園芸メガ団地」の整備事業で近隣の平沢地区にある農事組合法人平沢ファームの園芸メガ団地と連携し、現在枝豆６．４ｈａ、ねぎ２．２ｈａを生産しています。また、新たに施設や機械の導入、電気、水道事業も実施されました。

## ３．廃校を利用したライスセンター等について

アグリあいかわのライスセンターは旧戸米川小学校体育館の一部を改修・整備した米や大豆の乾燥調製施設です。国の産地パワーアップ事業や秋田市の農業経営発展支援事業などを活用し、平成２９年１０月に着工、平成３０年１月に完成しました。鉄骨平屋建て、延べ床面積は６８０平方メートルとなっています。また、旧校舎の隣にある旧雄和幼児教育センターも枝豆とねぎの集出荷や選別場として利活用しています。

■ライスセンターでの作業

センターでの米選別作業は２段階で行われ、外にはもみ殻排出専用のハウスを設けて作業の効率化を図っています。１日の平均荷受け量はおよそ４０ｔにのぼり、昨年の高温および大雨の被害で１等米が減少した中で、アグリあいかわはセンター内にある色彩選別機で米の品質を維持しました。今後もこのような天候が続けば、色彩選別機は必須であると伊藤代表は話していました。

■循環型農業の実践

同センターで排出されたもみ殻は畜産農家へ無料で提供し、もみ殻と家畜の糞を混用した堆肥を主に大豆の栽培に活用しています。こうした循環型農業への取り組みの功績が自治体から評価を受けています。

保有設備・施設

- 乾燥調製施設：１式
  乾燥機７台（大豆兼用３台：８ｔ）、籾摺機２台（６インチ）
  色彩選別機２台・大豆選別機１台
- 田植機：１台（８条植え）
- 水稲用コンバイン：２台（５条刈１台、３条刈１台）
- トラクター：２台（６０馬力・４５馬力）
- 大豆コンバイン：２台（３条用・２条用）
- ラジコン防除機（ボート）：１台
- フォークリフト：１台
- ホイールローダー：１台
- 枝豆供給機：１台
- 枝豆収穫機：１台
- ねぎ収穫作業機：１式（皮むき機）
- ねぎ収穫機：１台
- ねぎ作業用プレハブ：１棟
- 管理機（ねぎ用）：４台（うち乗用管理機１台）
- 事務所プレハブ：１棟
- 軽トラック：６台
- 育苗ハウス：１４棟（水稲用１１棟・野菜用３棟）
- 格納庫パイプハウス：２棟

## ４．今後に向けて

昨年は猛暑で厳しい圃場管理となりました。収穫や除草といった作業は約２０名の臨時雇用の方々に依頼しています。受託農家のために圃場をきれいに保ち、信頼や結びつきを大切にしています。

「地域に根差した農業のため、人手をもっと増やしたいが後継ぎとなる人がなかなか見つからない。周囲の農業法人の雇用状況がここ数年で急激に変化してきている。これからの農業を担う後継者の育成が課題となっている。若い人に『稼げる農業』をアピールしたい」と伊藤代表は話していました。

今後も引き続いて栽培面積の維持、拡大を図るため、水稲の直播栽培にも力を入れていきたいと話されました。

格納庫パイプハウス

営農支援部 営農支援課　☎018-880-1011

# 営農支援情報

## 《 野 菜 》　夏から秋にかけての管理作業のポイント

暑さのピークを迎えるこの時期の高温対策が特に重要です。施設・露地栽培ともこまめなかん水管理や通路散水等を行い草勢維持に努めてください。

**【雨よけホウレンソウ】**

曇雨天後の強い日差しにより葉がしおれたり、葉焼けを生じる場合があります。特に生育初期の地際部は高温障害を受けやすいので、遮光資材等を活用し地温の上昇を抑えます。 また、土壌が乾燥すると、ほうれんそうの生育が停滞するため、播種前のかん水はムラなく十分に行います。

発芽まで３～５日を要しますが、この間に種子のある深さまで過乾、過湿になると発芽不良になるので気温や土壌の乾燥状態に合わせた土壌水分管理が重要です。発芽直後から本葉４枚頃までは、立枯病や徒長を防ぐため基本的にかん水を行いませんが、砂質土壌や乾燥傾向の場合は若干量行います。収穫７～１０日前ころからは、品質低下を防ぎ、葉色の向上と葉の厚みを持たせるためにかん水は行いません。

**【秋冬どりキャベツ】**

秋冬どりキャベツの定植は一番暑い高温乾燥時に行われるので生育抑制・遅延を招きやすくなります。

かん水施設のあるところでは、夕方か朝の温度の低い時に積極的にかん水します。特にセル成型苗の場合は定植後に乾燥している場合にかん水の効果が高まります。

第１回目の追肥は定植後１５～２０日頃に畝の肩に施し、第２回目は結球始め頃に畝間に施し軽く中耕・培土します。追肥量はチッソ、カリ成分で１回当たり４～５ｋｇ／１０ａとします。

**【秋冬ネギ】**

１０月から収穫が始まる秋冬ネギは、出荷規格の軟白長が３０ｃｍになるので８月以降の土寄せが重要作業となります。畝を平らにする削り込みが終了後、２０日前後の間隔で土寄せを行い、最後の土寄せは収穫予定の２５～３５日前に行います。収穫期間が長くなると葉鞘部の伸長が進み、葉鞘部が緑白部（ボケ）になり品質が低下するので、最終土寄せは大面積を一斉に行わず、日毎の収穫量に合わせて行います。最後の土寄せ以外は、葉身部と葉鞘部の分岐点を超えないように分岐点から１０ｃｍ程下まで行い、最後は葉身と葉鞘部の分岐点まで行います。

**営農支援部 営農支援課　☎018-880-1011**

## ご紹介

### 兵庫県のスーパー「ｍａｎｄａｉ（万代）」で
### サキホコレ試食販売を実施しました

６月１５日～１６日に兵庫県神戸市にあるスーパーマーケットｍａｎｄａｉ（万代）西神中央店にて、秋田米最上位品種「サキホコレ」の試食・販売キャンペーンを実施しました。

万代店舗でのサキホコレの取り扱いが初めてということもあり、たくさんのお客様にサキホコレを試食していただく事ができました。サキホコレを初めて食べたお客様からは「粒感があって食べ応えがある」「モチモチして美味しい」「噛めば噛むほど甘みが増して美味しい」などの感想をいただきました。２日間のキャンペーンは、予定していた販売数量が１日で完売し、サキホコレを追加で準備するなど大盛況でした。

# ＪＡうご産「スターチス」ほか秋田県産花きの魅力を発信

あきた園芸戦略対策協議会（事務局：ＪＡ全農あきた）は、ＪＡうごと秋田生花株式会社と連携し、秋田県産花きの消費拡大と多くの方に魅力を発信しようと秋田市のヤマキウ南倉庫で「秋田県産フラワーカフェ」と「ＪＡうご産スターチスフェア」を開催しました。

## 「ＫＡＭＥＮＯＣＨＯ ＳＴＯＲＥ（亀の町ストア）」で「秋田県産ＦＬＯＷＥＲ ＣＡＦＥ～秋田のお花で癒しの時間を～」

店内はＪＡうご産「スターチス」のほか、ＪＡ秋田なまはげ産「ダリア」、ＪＡこまち産「トルコギキョウ」が飾られ華やかな雰囲気の中で、ランチやカフェを楽しむお客さんの様子が見られました。利用客にはスターチスのドライフラワーが配布されました。

## florist natural（フローリストナチュラル）でＪＡうご産「スターチスフェア」を開催しました

ＪＡうご産「スターチスフェア」では、定番の紫だけではなく、淡いピンクや水色、オレンジなど多彩な色を準備し消費者にＰＲしました。イベント期間中は、来場者に「スターチスのミニカード」がプレゼントされたほか、お手軽価格で購入できる「ワンコインミニブーケ」が販売されました。

# 「第３５回秋田県ＪＡ農業機械大展示会」を開催！

ＪＡ全農あきたとＪＡグループ秋田は６月１９日・２０日の２日間、秋田県立スケート場を会場に「第３５回秋田県ＪＡ農業機械大展示会」を開催しました。

今年は、約３０のメーカー各社が最新農業機械などおよそ５０００点を展示。期間中は約２５００人の来場者でにぎわいました。

会場には、自動操舵（そうだ）機能の付いたトラクターや田植機、農業用ドローンなどＩＣＴ技術を活用した各メーカー最新の農業機械が展示されたほか、全農が今年１月に共同購入第３弾として発表したコンバイン（４条刈り、５０馬力クラス）を初披露し、来場者にＰＲしました。

ほかにも、肥料や農薬、農業資材の展示、営農管理システム「Z-ＧＩＳ」、栽培管理支援システム「ザルビオフィールドマネージャー」の紹介も行いました。「スマート農業実演コーナー」では試乗会を開催するなど農業に関するさまざまな情報を発信しました。

各コーナーでは熱心に説明を聞く来場者の姿が見られ、「最新機械の情報が得られてよかった」「各メーカーの機械を比較できてよかった」という声が聞かれました。

# お知らせ

## ９１農業 ～新しい形の農業参加～【労働力支援】

全農は人手不足に悩む生産現場を支援し、その地域に人が集まること（地方創生、農業関係人口増）を目指して、多様な人材が各々のライフスタイルに合わせて農業にかかわれるよう、農業へのハードルを下げて農業参加を訴求すること等を目的に、「あなたのライフスタイルに農的生活を１割取り入れませんか？」をコンセプトとする新たなライフスタイル「９１農業」（キュウイチノウギョウ）を提唱し、ＰＲ活動等を行っています。

**新しいライフスタイル　“９１農業”**

〇９本業１農業：休みの日に１日農業、新しい副業の形
〇９育児１農業：子育てしながら一時期に農業、新しいパートの形
〇９旅行１農業：旅行の１日に農業、新しい旅行の形
〇９夢追１農業：夢を追いながら一時期に農業、新しいバイトの形
〇９自宅１農業：家以外に居場所が一つ増える、新しい就労支援の形

**農業に関心のある人々を**

（就農希望者・ＪＡ準組合員
副業人材・障がい者
移住希望者・学生etc…）

↓

**農業現場とマッチングすることで**

**（９１農業）**

↓

**農業分野・地域社会への効果を生み出し**

農業生産規模の維持、拡大
農業者の所得増大
新規就農の促進
地域への人流増加
地域の雇用創出
移住による関係人口増加

↓

**地方創生・地域活性化**

Za・あぐりふぉーむ
Zennoh-akita agriculture+reform
ＪＡ全農あきた営農情報誌 Ｚａ・あぐりふぉーむ
第54号　令和6年8月5日発行
編集・発行 ＪＡ全農あきた営農支援部営農支援課 〒011-0901秋田市寺内字大小路207の24 018-880-1011